

2014

Annual Report

**新市庁舎整備を契機とした
関内駅周辺地区の
まちづくり**

**2014 年度
成果報告書**

横浜市

公民連携による関内駅周辺地区のまちづくり

横浜市では、平成 26 年 3 月に「新市庁舎整備基本計画」を策定し、平成 32 年 6 月に現市庁舎のある関内駅前から、北仲通南地区への市庁舎機能の移転が予定されています。

現市庁舎のある関内駅周辺地区では、市庁舎機能移転後のまちづくりが始まりました。厳しい財政状況の中で、より魅力と活力あるまちづくりを進めていくため、公民連携による取組みを進めています。

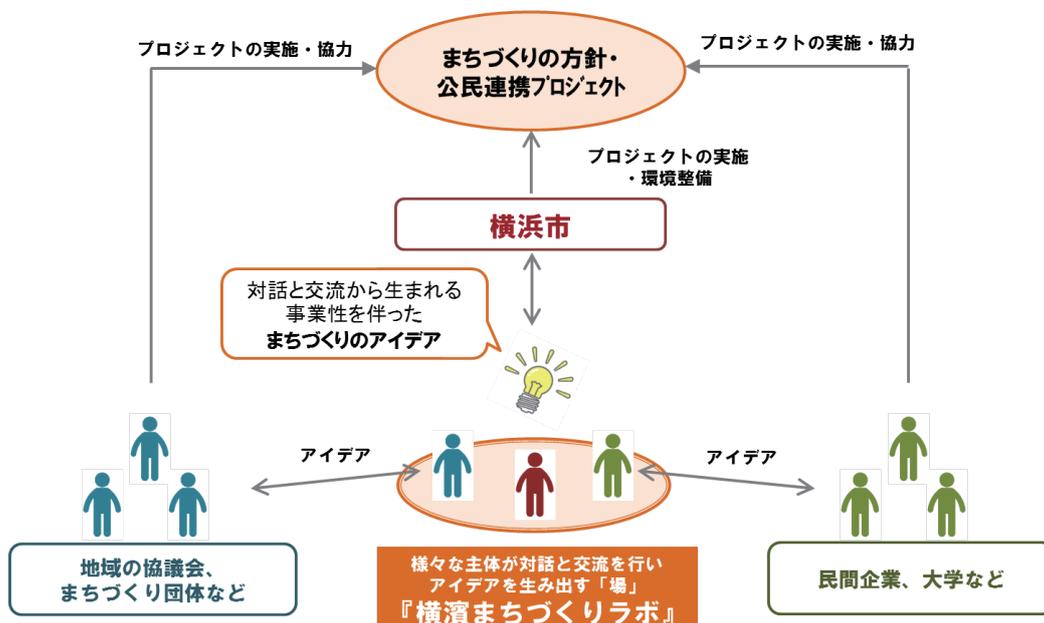
そのまちづくりを検討する「場」として、横浜市は、平成 26 年 7 月に「横濱まちづくりラボ」を立ち上げました。

これまで、リーディングプロジェクトとして、横浜文化体育館再整備、教育文化センターの跡活用の検討、現市庁舎街区の利活用・再整備の検討等を進めていきます。

横濱まちづくりラボ

「横濱まちづくりラボ」では、市民、企業、大学や行政などの様々な主体が、多様な視点や価値観のもとにまちづくりのテーマについて対話と交流を行い、セミナーやディスカッションを通じて、まちの将来像やまちづくりのアイデアを生み出します。

横濱まちづくりラボでは“事業性を伴ったまちづくりのアイデア”を議論し、公民連携によるまちづくりを推進します。





- 7/1 ● **第1回 キックオフイベント** 約 130 名参加

トークセッション「横浜まちづくりラボの可能性～様々な“場”の運営者から～」

治田 友香氏 関内イノベーションイニシアティブ株式会社代表取締役
宮地 悠夏氏 一般社団法人企業間フューチャーセンター代表理事 3×3Labo 運営事務局
- 8/7 ● **第2回 横浜文化体育館再整備を核としたまちづくり①** 38 名参加

レクチャー「公共施設整備を起点とした複合ビジネスの創出」
廣常 啓一氏 (株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長)

スポーツ施設と相乗効果を生み出す事業やコンセプトについてのフリーディスカッション
- 9/4 ● **第3回 横浜文化体育館再整備を核としたまちづくり②** 38 名参加

レクチャー「ゼビオアリーナ仙台について」
上田 元氏 (ゼビオ株式会社 事業開発部門 マーケティングコミュニケーションチーム)

スポーツ施設と相乗効果を生み出す事業の組合せや波及効果について検討
- 9/18 ● **第4回 横浜文化体育館再整備を核としたまちづくり③** 39 名参加

レクチャー「スポーツを核とした街づくりを担うスマートベニュー」
桂田 隆行氏 (株式会社日本政策投資銀行 地域企画部)

施設の配置や周辺まちづくりの検討を行い、グループで事業モデル案を構築
- 11/10 ● **第5回 あなたが考える関内駅周辺地区のまちの将来像** 46 名参加

①まちのコンセプト、②そのために必要なもの(施設、機能など)、
③結果のイメージ について議論
- 1/15 ● **共創オープンフォーラム 関内駅周辺地区のこれからのまちづくり
～現市庁舎街区を核にした、公民連携による、まちの再生～** 約 200 名参加

関内駅周辺地区のまちづくりについての関心を高めるとともに、
公民連携によるまちづくりの可能性について事例紹介を含めたシンポジウムを開催
- 1/22 ● **第6回 “知と創造”をテーマとしたまちづくり①** 94 名参加

田中 浩也氏 慶應義塾大学環境情報学部准教授
廣常 啓一氏 株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長
- 2/12 ● **第7回 “知と創造”をテーマとしたまちづくり②** 61 名参加

8名の方のショートプレゼンきっかけに、
知と創造のまちづくりの可能性をディスカッション

 - ・「MICE・IRのバックヤードとしての役割機能作り」牛山 裕子氏 (関内・関外・港町地区都市計画協議会)
 - ・「スポーツウェルネスによる知と創造のイノベーションシテ化構想」
岡本 尚博氏 (横浜ビー・コルセアーズ エグゼクティブプロデューサー/ (社) 地域活性化事業法人 副理事長)
 - ・「福祉のまちづくり」河原 智之氏 (NPO 法人みんなの未来サポート 代表理事)
 - ・「関内・関外まちづくり 『知と創造』プラン」齋藤 美和子氏 (処デザイン学舎 代表)
 - ・近澤 弘明氏 (株式会社近澤レース店 代表取締役)
 - ・「横浜を花で彩りのある華のあるまちに」松浦 孝裕氏 (加茂株式会社 事業開発部長)
 - ・「国連創立70周年事業『生命の碧い星』」松崎 修明氏、大林恵子氏 (2015年国連創立70周年記念事業統括)
 - ・「次代を担う人材の育成拠点を中核に、都市型サービス産業やそれを支える 市民活動団体の集積を促進して
「国際商都」の活性化を推進する まちづくりの展開」佐々 徹氏 (横浜商科大学)
- 3/5 ● **第8回 “知と創造”をテーマとしたまちづくり③** 53 名参加

関内駅周辺地区のまちづくりとして実現していく
「知と創造」の機能をグループで検討



・文化体育館・旧横浜総合高校の再整備を核とした「スポーツ・健康」というテーマが、関内駅周辺地区のまちづくりの強力な原動力となる可能性が見えてきました。

・平成26年12月には、事業者公募にむけたサウンディング調査を実施しました。(12事業者参加)



・第5回での議論等をベースに「知と創造」というキーワードを抽出しました。
・第6回～第8回で、「知と創造」をテーマとして、多種多様な人材育成機能や国際交流、産業創出等の有望な機能が見出されました。今後、さらに検討を進めていきます。



今後 : 旧教育文化センター敷地の跡活用や現市庁舎街区の利活用・再整備、横浜文化体育館再整備と連携した周辺まちづくり大通り公園等の活用などの検討を進めます。

現時点での到達点とこれからの取り組み

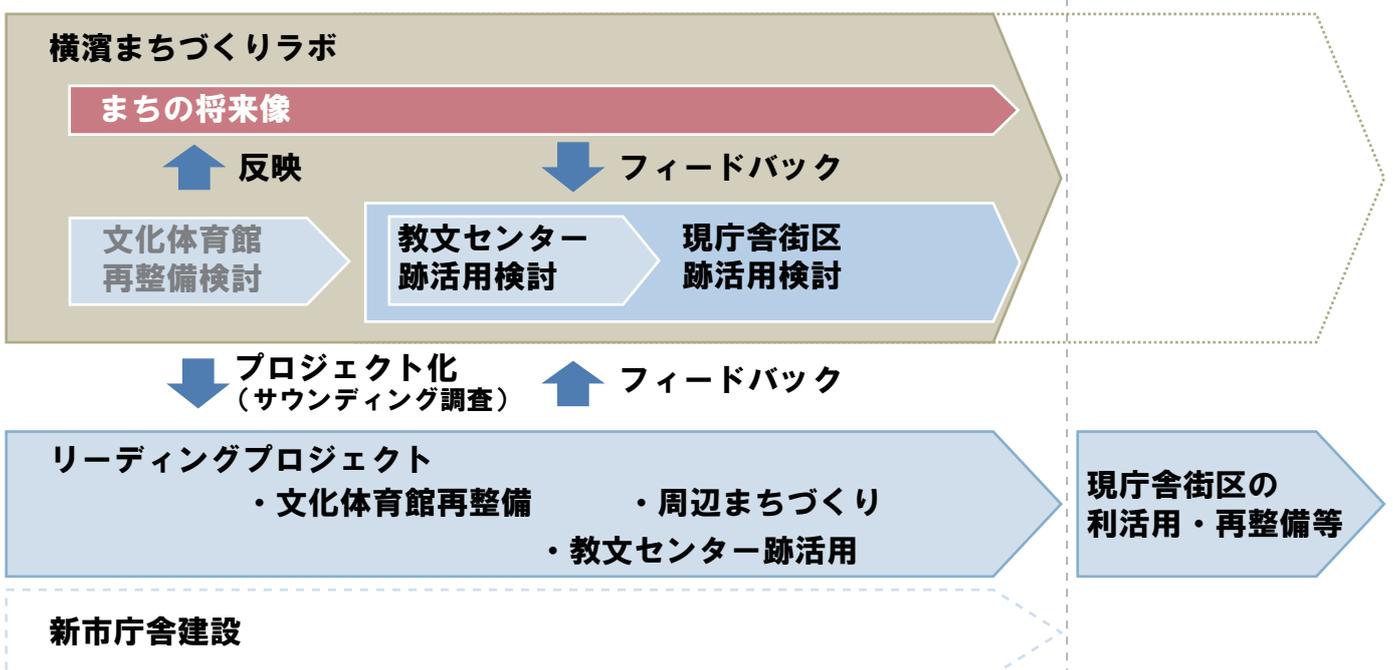
横浜市は、関内駅周辺地区のまちづくりを公民連携で進めるため、新市庁舎整備基本計画等でまちづくりの方向性を示しながら、実現性のあるまちづくりのアイデアやテーマを横濱まちづくりラボで議論・検討を行い、プロジェクトにつなげていきます。

横浜市は、こうしたまちづくりの議論のイニシアティブをとって進めます。

関内駅周辺地区のまちづくりの状況



関内駅周辺地区のまちづくりの流れ



横浜文化体育館再整備を核としたまちづくり

【現時点での到達点】

- 第2回～第4回の横濱まちづくりラボを通じて、アリーナ・サブアリーナに併設する民間施設等について、まちづくりに寄与する施設の様々なアイデアが出されました。

◆特色あるスポーツ文化の創造と発信

マイナースポーツの聖地、高齢・長寿社会に対応したスポーツ × 健康のサービス など

◆スポーツ・健康ビジネスの開拓

プロスポーツ選手との交流ができるスクール、プロスポーツに関わる人材の育成 など

◆医学とスポーツによる健康サービスの提供

医療施設とスポーツとの連携による健康管理、健康食サービスの提供 など

◆滞在・暮らし × 健康の新しいスタイルの創造

滞在型のヘルスチェック、健康づくりと連携した高齢者向け住宅 など

- サウンディング調査を実施し、2敷地一体での計画、サブアリーナを先行した整備、メインアリーナの民設民営等を前提条件として示し、実現の可能性を探りました。

【これからの取組み】

- ・横浜文化体育館再整備と連携した周辺のまちづくりの検討を進めます。
- ・平成27年度の事業者公募を目標に、事業検討を進めます。

教育文化センター跡活用等に向けたコンセプトづくり

【現時点での到達点】

- 第6～8回の横濱まちづくりラボを通じて、教育文化センターや現市庁舎街区の跡活用等に向けたまちづくりのテーマについて、様々なアイデアが出されました。

◆大学等の教育機関や企業の研究所等を集積し、人材育成を行う『教育・研究機能』

◆来日した旅行者や海外都市に対して、横浜または日本の情報を発信する『国際交流機能』

◆高齢化社会が進む中、年齢や状態に応じて高度な健康・医療サービスを提供する『ウェルネス機能』

【これからの取組み】

- ・教育文化センター跡利用のプロジェクト検討を進めます。
- ・現市庁舎街区の跡利用について、横濱まちづくりラボでの検討を進めます。

関内駅周辺地区のまちの将来像

【現時点での到達点】

- 第5回横濱まちづくりラボにおいて、関内駅周辺地区全体のまちづくりの方向性や将来像について、様々なアイデアが出されました。

◆“スポーツと健康”により健康になりたい人が集まり楽しく暮らせるまち

◆知識や情報が集積し多様な人材の出会いと交流が起こるまち

◆外国人が来たくくなるような日本の魅力を感じるまち

◆“関内で働き、関外に住む”職住が近接したまち

◆歴史や伝統、資産を活かしたまち

◆魅力的な街路により歩きたくなるまち

【これからの取組み】

- ・まちの将来像については、今後も様々な機会やプロジェクトの進捗にあわせてアイデアをいただきながら、イメージづくりを進めていきます。
- ・回遊性の強化や界わいの形成、交通拠点の強化などを進めていきます。

横浜まち
づくり
ラボ

2014
Annual Report

新市庁舎整備を契機とした関内駅周辺地区のまちづくり
2014年度 成果報告書
Annual Report 2014
横浜市

検討受託
株式会社山手総合計画研究所